

報告書



令和2年 1月30日

小牧市議会議長 様

会派名 公明党小牧市議団
代表者氏名 加藤晶子

研修・調査を行いましたので、その結果を報告します。

記

1 調査日

令和 2年 1月23日(木) ～ 1月24日(金)

2 調査先及び調査項目

- (1) 京都府 綾部市
認知症サポーターの活躍について
- (2) 奈良県 葛城市
大型スポットクーラー設置について

3 参加議員

加藤 晶子
稲垣 衿子
星熊 伸作

4 調査内容

別紙のとおり

① 日時 初日

令和 2 年 1 月 23 日 (木) 13 時 30 分から 15 時 40 分

② 訪問先

綾部市議会

② 説明者

綾部市議会副議長 森 義美 (挨拶)

綾部市福祉保健部 諏訪博幸 次長

綾部市高齢者支援課 大島けい子 課長補佐

綾部市社会福祉協議会 山下宣和 事務局長

④ 調査項目

認知症サポーターの活躍について

⑤ 視察先の選定理由や目的

認知症サポーター養成講座を受けた方々が更にステップアップし、地域に根差し、見守りや支援の担い手として活躍しているため

⑥ 視察項目の概要説明

導入経緯…認知症を生きる人と家族の理解者を増やすため、認知症サポーターを受講して終わりにせず、サポーターが地域に根差した活動ができるよう、独自の研修プログラムを導入した。

内容…ステップアップのため、シルバーサポートとゴールドサポートという 2 種類の講座を用意し、受ける側の用途に合わせて選べるようにした。

実施状況…シルバーサポートは現在 3103 名が受講し、地域ボランティアとして見守り、活動している。ゴールドサポートは 20 時間の講座となっており、現在 438 名が受講し、地域福祉の担い手として活躍している。

効果…認知症に対する理解が深まり、地域においてサポーターの方々がいきいきと活動されるようになった。傾聴活動等で、家庭訪問まで実施。

課題…キッズサポーターの育成が進んでいない。

支え合って安心して暮らせる街づくりと「認知症」に対する疾病感を変えていけるよう、より多くの市民の力もお借りしていきたい。

⑦ 議員からの主な質疑

質問 1 55 事業所までシルバーサポート店が拡充された理由は？

答弁 1 商工会議所と連携して推進したことと、見守りに協力してくれる人々が増えてきたことが大きい。

質問 2 認知症初期集中支援チームの体制は？

答弁 2 愛称を「あがり」と言っており、認知症サポート医 4 名、認

知症看護認定看護師 1 名、作業療法士 3 名、介護職（認知症リンクワーカー）2 名の中から、チームを組み、現場に行っている。平成 28 年 11 月から活動している。

⑧ 議員の意見

これからは「認知症」に対する疾病感を変えていくことが大切であると感じる。周りの適切なサポートがあれば、その人らしく暮らしていける時間を伸ばすことも可能であると考える。

⑨ 考察（小牧市への反映）

綾部市では「移動足湯サポーター」や「RUN 伴」を開催し、タスキリレーなども行っていたが、認知症本人とその家族が気軽に参加ができ、少しでも楽しい時間を過ごせる具体的な取り組みの展開が必要と感じる。

① 日時 2日目

令和2年 1月 24日(金) 10時00分から11時30分

② 訪問先

葛城市議会

③ 説明者

葛城市教育委員会 森井俊英 部長

葛城市教育委員会体育振興課 植田和明 課長

④ 調査項目

大型スポットクーラーの設置について

⑤ 視察先の選定理由や目的

体育館の空調設備を低コストで設置されているとお聞きし、費用対効果も高いという事なので、熱中症対策に効果的な事と、今後、大規模な自然災害に備えての避難所としての役割を果たす上で、快適な環境が提供できるのではないかと期待した為。

⑥ 視察項目の概要説明

(導入経緯・内容・実施状況・効果・課題等)

導入経緯・内容・実施状況・効果・課題等)

導入経緯…施設利用者からの設置に対する要望があった事

年々気温が上昇する中で、施設利用者の熱中症リスクが上昇している事。

内容・実施状況…市内3箇所の体育施設に天井吊りダクト型スポットクーラーを設置。(各施設4隅に設置)最終契約金額13,319,640円。維持費は、年間メンテナンス費用1施設あたり7万円程度。電気代は、前年同月比で7万円程度追加

財源は、広域避難所については緊防債の対象。

特徴・効果…大規模施設向けの空調設備と比較して圧倒的に導入コストが低い。体育館全体を冷やす能力はないものの、冷風が対流する事により一定の効果は確認できる。

課題…エアコン利用についての取り決めの設定。使用時間の制限や、利用料金の設定等。

⑦ 議員からの主な質疑

質1 費用対効果は?

答1 年々気温が上昇し、体育施設や避難所の空調設備の設置が喫緊の課題となっている市町村が多い中、スポット型クーラーは、

導入コストが低いため財政負担が少なく済むことや、老朽化が進んでいる施設でも導入を検討しやすい事。

体育館全体を冷やすという観点ではなく熱中症対策や避難施設の機能改善という観点では効果があること

⑧議員の意見

今回視察したスポットクーラーは、冷房機能だけで暖房機能がないものの、低コストで出来るメリットが大きい事から、このような形態での設備が普及していくのではないかと考える。それに合わせ今後新しい機能を備えたスポットクーラーが開発されるのではないかと思う。

⑨考察（小牧市への反映）

地球温暖化現象で年々気温が上昇しているので未設置の体育館には、冷房設備設置は急務であると思う。特に風水害が年々増えているので避難所としての機能を有効に果たすために、今回の事例を参考にして空調設備設置に向けて推進していきたい。

